保護者向け学校通信

創る

実際に妊婦さんのお腹に
触れさせていただく貴重な体験も

令和７年
１０月１６日（第１６号）
学校長　村松　章史

いのちの不思議さ、重さ、そしてあたたかさ

１０月８日　思春期体験学習（赤ちゃん抱っこ体験）

１０月８日、３年生を対象に思春期体験学習を行いました。これは峡南教育事務所が主催し峡南地域の全中学校で行われている取組で、

①生命誕生のしくみを知り、いのちの大切さへの意識を高める。
②親になることの意味と責任を考える。
③支え合いの中で子どもを育てることを考える。　これらをねらいとして毎年実施しています。当日は、午前中に町の子育て支援課の保健師や助産師の方からの講義を受けたり、妊婦体験をしたりしながら学習を深め、赤ちゃんとのふれあい体験に備えました。午後には、赤ちゃんとそのお母さん８組を招き、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、お母さんに質問したりしながら、いのちの重みや温かさを実感しました。泣いた赤ちゃんをあやすなどドキドキの場面もありましたが、優しい表情で赤ちゃんと過ごしていたのがとても印象的でした。きっと自分自身もたくさんの人に守られながら大きくなってきたことを感じ、実際に親になったときのことを想像してくれたことと思います。

以下、事後アンケートの記述より

（妊婦体験をして）

◆このきつい状態がずっと続くと思うと妊婦さんはすごく大変だなと思った。だから電車とかでも妊婦さんがいたら席を替わるなどしたいなと思った。

◆母も〇人の子どもを育てて、何回も経験して大変なこともたくさんあったんだな、今生きてるのって母が苦労を重ねて私がおなかの中にいた頃から育ててくれたからなんだなと改めて感じました。

◆妊娠しているお母さんが何を感じているのか分かった。体験してよかった。

（赤ちゃんを抱っこして）

◆本物の赤ちゃんは温かみがあって人形の時より責任を感じた。担当のお母さんの話を聞いて、親になることの責任や大変さが分かった。

◆泣き止ませることは自分たちには全くできなかったから、お母さんたちがすごいと思った。そしてすごくかわいかった。

◆赤ちゃん、かわいすぎた！　もっと妊娠中のことなどについて詳しく知りたい。

◆赤ちゃんを抱っこするときに責任を感じました。講義では私たちが生まれてきたことは奇跡だと教えてもらいました。自分の命を大切にして、これから生きていきたいなと思いました。

◆これから家族を持つかもしれない自分たちにとって、貴重な体験で、大事なことを教えてもらい、命の大切さを学べました。